

この会は、「憲法9条を変えてはいけない」の一点で、あらゆる立場や考え方、世代の違いを越えて多くの人と共同し、九条を活かした平和のための活動を行う会です。みなさんの賛同、ご支援をお願いします。

平和を願い、みんなで楽しんだお祭り



人形劇、川島町 PTA からスタートし、長年地域活動が続けてきたモンメール劇団、ダイナミックな動きと美しい色彩表現を使っの「ゴンギツネ」と「貧乏神」の上演に、みんな夢中で見入りました。



8月1日、「親と子の平和まつり」が あんきの家細畑にて開催されました。今年から岐阜市教育委員会の後援も受けて、親ごさんやおじいちゃんおばあちゃんに連れられて多くの子どもたちが催しに参加し、交流の輪を広げました。モンメール劇団の人形劇に始まり、フリーアナウンサー浅井彰子さんの絵本の朗読とお話、参加者出演による「ヤクバとライオン」の群読、そして子ども「コーナー」の実物の化石に触れながらの地球の歴史のお話など多彩な催しを楽しみました。

第4回「親と子の平和まつり」開催 みんなが参加、ひろがる交流の輪

読み聞かせや言語学習の指導など幅広い活動を展開されているフリーアナウンサー、浅井彰子さん。参加者による群読や朗読の指導、そして素晴らしい絵本の朗読を聞かせてくれました。群読「ヤクバとライオン」では、急な出演で額に汗して奮闘するおじいちゃんや素敵な朗読を熱演するお母さんなどが、見事に「戦わない勇気」を訴えてくれました。



浅井さんは絵本の朗読の素晴らしさと広がりも体験させてくれました。「みんながこの日のようにつどい、つながり、ひろがり、知り合い、学び合い、内面を豊かにしていくことが平和につながる大切なこと」と話されました。

そして次のような素晴らしい絵本を、とても優しく朗読されました。

- ★「わたしはひろがる」岸武雄作、
- ★「エリカ・奇跡のいのち」ルース・バンダージ作、
- ★「ラブユー・フォーエバー」ロバート・マンチ作、
- ★「やまのバス」内田麟太郎作、他



子どものコーナーでは、子どもたちが古生代から新生代に至る三葉虫、アンモナイト、ピカリアなどのいろいろな化石を手に取り、じかに触れながら壮大な生命の歴史のお話に耳を傾けていました。そして先生の化石取りだしの実演を見学したのち、それぞれ化石入りの石の塊をもらって目を輝かせていました。



7月9日、岐阜空襲の日、平和の鐘を鳴らす

—長森・日野地区の9寺院を巡る— <長森・日野9条の会、参加者9名>

65年前の7月9日、岐阜の街は、焼夷弾による夜間無差別爆撃の空襲を受け、火の海地獄となりました。歴史と自然に育まれた美しい岐阜の街は一夜にして焼け野原と化し、多くの市民が犠牲となりました。この「平和の鐘」は、岐阜市民が悲惨な戦争の悲劇を胸に刻み、語り継ぎ、平和都市宣言として「戦争と核兵器をなくす」ことを訴え、その実現を誓って毎年7月9日に鳴らすものです。長森・日野九条の会でも、この地域で「平和の鐘」を響かせることになりました。



2つの寺の鐘にまつわるエピソード

長森の上宮寺は、踏み石に石臼を配置した静かな美しい寺。鐘に大無量寿経の“国豊民安兵戈無用”（こくぶみんあんひょうがむよう＝国が豊かで民が安らかなことは兵隊も武器もいらぬこと）の鑄だし文字。日中戦争の最中（昭和12年）、「この戦争は侵略戦争だ」として戦争に反対し有罪判決を受け、真宗大谷派本山からも懲罰を受けた旧垂井町明泉寺僧侶竹中彰元師が根拠とした教えといわれます。



日野の誓源寺では、門の中央に青い“平和の鐘”の旗が飾られ、きれいに手入れされたお寺で、住職からお話を伺いました。この寺の鐘は、戦時中、物資として供出されたのですが、この鐘には菊の花が刻まれていたため、戻ってきたそうです。菊と共に鐘の一部が凹んで変形し、戦争に翻弄された数奇な運命の名残が見られました。



長森日野九条の会、賛同者が800名に

長森・日野九条の会では、いろいろな人のつながりや、機会を通して賛同者を募ってきましたが、現在ほぼ800名に達しました。これからも幅広く多くの人に声をかけて、平和を望む人の輪を広げていきたいと思えます。賛同者の皆さん、これからもよろしくお願いします。

蔵前地区で新たに賛同者40名

7月25日、猛暑の日曜日、蔵前地区100軒ほどのご家庭を訪問して「憲法9条と平和」についてのお話をさせていただきました。夏休み最初の日曜ともあって、お留守の所も多かったのですが、40名の方が賛同され、署名して頂きました。

もうすぐ発足 **5**周年!

人々を破壊と殺りくに陥れる戦争ほど愚かで悲惨で野蛮なことはありません。でも現実には世界各地で悲惨な戦争が行われています。「2度と戦争を起こさせない」、戦争と平和の歴史を語り継ぎ、平和を願う人が力を合わせ、輪を広げ、考えていくことこそ大事なことでないでしょうか。

「5周年のつどい」には、みなさんご参加ください。